

東日本大震災 一周忌法要表白

夫れ 惟れば 平成廿三年 三月十一日 十四時四十六分 日本は観測史上最大規模の東日本大震災に見舞われ 死者行方不明者約二万名を数えるに至る まさに一瞬にして惨劇の様相を呈す 親しき者を失う苦しみは諸行無常の娑婆世界にあっては常なれども突然の天災により別れを告げる暇なく 数多の命を失うことは 残る者の心に 深く傷痕を残し 一年を経てもなお その苦しみ癒えることを知らず やり場なき苦しき思いは 今もなお遺族の心にあり

されど 人の生を享くるは偶々衆縁の結ぶところにして 到底個人に選択の余地無し また それを終うるも 衆多の因縁のしからしむること 避くべからざる運命と言うべし 生死は表裏をなして連綿と続く帯の如く また 大海に風波泡沫の生滅して 一瞬も留まること無きが如き生命の営みの相を示せり

日々の生は生涯の生に他ならず 幸いに人として生を享け今日を生きる者 宿命を 受容して努めずんばあるべからず

今ここに一周忌を迎え 亡魂は勢至菩薩の境地に入り給う 夫れ勢至菩薩とは 神力をあらゆる場所にはたらかせ自在に操り 過去・現在・未来に存在する諸々の仏や菩薩を助け 苦しみに悶える衆生の心に働きかけ その絶大なる力を振るい 必ず衆生を苦しみから救済する仏なり また勢至と名づくは智慧の光をもってあまねく全てのものを照らし 特に苦しむものに最上の力を振るうが所以なり されば震災の傷癒えぬ衆生にこそ その威力をもって安寧をもたらし賜わらんことを願うものなり

本日ここに 大震災大津波被災一周年忌を迎え 更めて犠牲者及び御親族の心情を思う時 悲痛断腸の思い 生々しくも胆をただらして 軽々しく 寄り添いの気休めを口にするのも はばかられるが如し 唯々 至心に経を誦して 小衲等 わずかに四国八十八ヶ所各霊場御本尊を勧請して壇上を莊嚴し 亡魂仏国土に安住せられ 御遺族及び被災住民の安寧と平穩の日々復興に護念賜わらんことを祈るのみ

重ねて請う

大震災大津波罹災者諸精霊 速疾得脱 仏果増進
放射能災害 速疾消滅
被災地 生業復興 人心安寧 諸人和楽
諸願円満 皆令満足
乃至法界平等利益

惟時 平成廿四年三月十一日

四国八十八ヶ所霊場会青年部一同 敬白